

外来魚のいない水辺へ向けた地域住民による水環境管理の構築

北島淳也 東海タナゴ研究会 名大院環境

守りたい、取り戻したい生態系を目指して、各地で様々な外来魚防除活動が行われています。また、今回、第五回を迎えた外来魚情報交換会のような活動を通じ、各地で、ため池の池干しなどの駆除活動に取り組み始める方々も増えております。

演者らも各地で外来魚の居ない水辺へ向けた、池干しや在来種の復元などの活動を行ってきました。ため池などにおける外来魚問題は、外来魚の移入そのものに問題があることは明らかですが、同時に、農業の変化などを背景とした、地域住民によるため池管理機能の低下も背景となっています。したがって、ため池だけでも、全国 20 万カ所と言われる様々な水辺において、外来魚のいない水辺を造っていくためには、地域住民による水環境管理の自主的システムを立ち上げる社会的レシピを開発する必要があります。

そこで、演者らは、地域住民（地元自治体、自治会、農業団体、小学校、高校、地元企業社員など）との連携協働によるアクションリサーチによって、外来魚の居ない水辺にむけて、生物多様性保全、復元、管理の自主的地域システムを樹立する為の文理融合的環境教育プロジェクトを行っています。

プロジェクトでは、池干しによる外来魚駆除、在来種の復元を通じ、地域住民による科学的な水環境管理を構築していくなかで、以下の調査、研究をすすめております。当日は、これまでの保全活動の経験を交えながら、これまで得られた、成果について、お話しさせていただきます。

外来魚駆除の池干し、復元放流など具体的な保全活動を通じた生態学的モニタリングにより、生物多様性保全の為の水環境管理手法を明らかにする

地域の社会関係資本の活用や環境リスクコミュニケーションなどの環境心理学的なアクションリサーチを実施する。

さらにアクションとして実施されたプロジェクトによって促された地域住民の水環境保全の意識や行動の変容について評価するためのアンケート調査を実施する